

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	総務企画常任委員会
参 加 者	委員長 鈴木 静男 副委員長 鈴木 英樹 委 員 大原 昌幸 磯部 亮次 山崎 泰信 野島 さつき 江村 力 三宅 健司 神谷 寿広
視 察 日 時	令和2年1月23日(木) 10:00～11:30
視 察 先 ・ 概 要	千葉県松戸市 人口：494,402人 世帯数：233,812世帯 面積：61.38 k ² 特記事項：住みよさランキング2019(東洋経済)総合691位 (安心718位、利便565位、快適333位、富裕373位)
視 察 項 目	「中央消防署新庁舎」について
視 察 概 要	<p>1 建てかえの経緯、背景</p> <p>旧庁舎は昭和42年に竣工し、その後、昭和62年に外壁改修工事、平成元年に防水工事、平成10年に耐震改修工事を実施しているが、建物全体の老朽化が激しく、修繕等により応急的な措置で対応を図っていた。しかし、根本的な改善措置が困難な状況、かつ消防車両の大型化による車庫スペース不足、大規模震災等の災害時における基幹的消防署としての機能確保が困難な状況であった。</p> <p>本事業については、松戸市総合計画・第5次及び第6次実施計画で松戸市南部地域の災害対応力強化を図るための取り組みとして位置づけられていることから、大規模災害時の活動拠点としてふさわしい規模、機能、設備等を備えた施設として整備している。また、千葉県北西部消防指令センター第2期整備事業をあわせて実施している。</p> <p>2 施設の特徴</p> <p>(1) 大規模災害時、長期対応できる消防庁舎</p> <p>ア 自家用発電機2機...72時間対応 (中央消防署・ちば北西部消防指令センター)</p> <p>イ 自家用給油施設(ガソリン2万L・軽油1万L) 大規模災害時において、車両の燃料確保が困難な際に、消防車両及び市役所災害対応車両が7日間の燃料確保が可能</p> <p>ウ 大会議室(100名収容可能・2分割可能)</p> <p>(ア) 大規模災害時、災害本部運営拠点</p> <p>(イ) 大会議室を2分割し、異なる市民指導(防火・防災・救急)を同時に行うことが可能</p> <p>エ 防災備蓄庫及び非常用簡易トイレ(マンホール式トイレ)</p> <p>(ア) 緊急消防援助隊出場時の各種資機材の保管</p>

	<p>(1) 大規模災害時等、職員の長期活動を支援するための物資及び資機材を保管</p> <p>オ 耐震性防火水槽 (43.22m³)</p> <p>(2) 循環型社会に対応した施設</p> <p>ア 太陽光発電設備 (20Kw) 太陽光発電において、夜間街灯26灯及び一部の一般動力電力に供給</p> <p>イ 雨水貯留槽 (287.38m³) 消防ホース洗浄、消防車両の清掃及び施設内の散水等に雨水を再利用、または大規模災害時に非常用簡易トイレの排水に活用</p> <p>(3) 市民が利用しやすい施設</p> <p>ア 車椅子専用駐車場及び視覚障がい者用誘導用ブロックの設置</p> <p>イ 庁舎内のバリアフリー化</p> <p>ウ みんなのトイレ (昇降式オストメイト対応トイレ完備)</p> <p>(4) 執務環境の向上</p> <p>ア 女性職員専用スペース 女性職員専用スペース (休憩室、更衣室、トイレ、仮眠室、給湯室、洗面所) を設置し、女性職員の職場環境に配慮</p> <p>イ 仮眠室の個室化 インフルエンザを初めとする感染による消防力低下を防ぐとともに、職員のプライバシーの確保に配慮</p> <p>ウ 訓練環境の確保 市民指導時においても活用</p> <p>(ア) フラットな敷地空間を確保し、広い訓練スペースを確保</p> <p>(イ) 新庁舎を利用し、さまざまな訓練が行える訓練施設を併設</p> <p>(5) 安全・迅速な出場体制の確保及び広報の推進</p> <p>ア 出場表示板 緊急出場時に、走行中のドライバーに対し注意を促し、安全かつ迅速に出場体制を確保</p> <p>イ 電光掲示板 (動画再生可能) 火災予防、救急車の適正利用、消防団員の募集など、各種広報に推進</p> <p>ウ 広い車庫空間 車両の停車間隔を十分に設け、緊急出場時の出場準備及び迅速な出庫が可能</p> <p>(6) ちば北西部消防指令センター施設 (第2期整備) 中央消防署新庁舎は、ちば北西部消防指令センター施設 (事務室、指令管制室、食堂、書庫、会議室、男子更衣室、男女仮眠室、電気室、機械室) を有している。 ちば北西部消防指令センター占有部分926.62 m²</p>
--	---

<p>所 感</p> <p>視察しての感想 や岡崎市への提 言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、「松戸市南部地域の強靱な災害・防災活動拠点」と消防の広域化により千葉北西部地域からの119番通報を受信するための「ちば北西部消防指令センター（10市）」共同指令センターとあわせ複合拠点庁舎として整備が進められていた。防災観点では、指令センターと消防署に分けた発電装置で、かつガスと軽油ともに使用できる仕様とし、72時間稼働が可能にしてあった。指令センターと消防は階により独立し、それぞれ女性を考慮した仮眠室やシャワールームが整備され、隊員が過ごしやすい住環境の整備も図られていた。また、指令センターの機器寿命は10年のため、10年後の場所の確保も含めた間取りで設計されていた。消防においては、待機室から出動しやすい動線や装備ロッカー、装備ロッカーについては今後の3組対応も考慮した仕様や、追加資機材の倉庫や薬物汚染の洗浄など、庁内感性を防ぐための工夫や配置がされていた。本市においても、今後更新する消防署については男女ともに消防隊員が活動しやすい環境整備を進めていくことと、更新までも時間がかかる施設においては、少しでも環境改善が進む取り組みに結びつくように提言したい。 ・消防署の屋上に消防署を大きく表示して、ヘリコプター等から認識しやすいようにしていくことを提案する。 ・設計段階において、近隣他市の経験をアンケートなどにより、有効に活用している。女性専用スペース、緊急時の動線、平常時のプライベート空間の設置については、上手に設計されたと感じる。また、車庫についても、天井が高く、車両点検、訓練もやりやすい設計である。本市が建てかえなどの時期に来た時には、参考にすべきところが多いと感じた。また、共同指令センターのスペースもとても効率的かつ余裕を持って設計してある。今後の運用にも期待できる。 ・中央消防署は新しくできたということもあり、大規模災害に長期対応でき、また、太陽光発電、車椅子対応、特に女性職員の専用スペースをしっかりとっており、女性の活躍が期待される場所である。今後、第2期整備として、ちば北西部消防指令センターができることによってより充実すると思う。参考にしていきたい。 ・新しい庁舎を設計するに当たり、車庫からの動線や資機材の保管、シャワー室や仮眠室の充実など、現場の職員の声を反映させているとのことで、大変効率よく配置されていた。21名の女性職員がおり、各晩1人ずつ勤務しているとのことで、女性専用の休憩室や広い洗面台など女性職員の職場環境に配慮がなされていた。自家用発電機2機（72時間対応）、自家用給油施設（ガソリン2万L・軽油1万L）で7日間の燃料確保が可能など、大規模災害時に長期対応できる機能を備えていること、東日本大震災時に壊れなかったガス空調と電気空調の両方を使っていることなど、災害を想定した設備配置など大変参考になった。また、太陽光発電設備や雨水貯留槽など、限られたスペースを最大限に活用していることなど、今後本市でも庁舎建設の際に参考になることが数多く
---	---

	<p>あった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸市中央消防署新庁舎は、地域強靱な防災活動拠点として、平成31年4月より運用を始めている。大規模災害時、長期対応できること、循環型社会に対応した施設であること、市民が利用しやすい施設であること、執務環境が向上できること、安全・迅速な出場体制が確保されること等、いろいろな面からの工夫がなされている庁舎となっている。特に、女性職員専用のスペース、仮眠室の個室化等、女性職員にとって細かな配慮がなされていることに感心した。本市においても庁舎を建てかえるときには、設計図を取り寄せ十分に参考にすべきだと思う。 ・消防署建屋が築50年以上経過し老朽化していること、総合計画に災害対応能力の強化を図ることが位置づけられていることから新庁舎建設に至った。設計に当たり職員の意見を積極的に取り入れ、動線を考慮し出勤時や帰庁時に無駄のない行動をとることができる。また、女性職員への配慮もしっかりできており、仮眠室は個室を設けることでプライバシーも確保され、女性職員しか暗証番号がわからない仕組みにしていることなどセキュリティ面もしっかりしていた。本市も消防本部庁舎の老朽化が際立ってきており、レッドサラマンダーなどの大型車両の保管場所の確保も考慮すると、新消防本部庁舎建設計画を考えていくべきと感じた。 ・新庁舎は、令和3年2月に運用開始が予定されている、10市の人口約240万人から119番通報を受信するための共同指令センター施設との複合拠点庁舎となる。大規模災害時に長期対応できる消防庁舎、大規模災害時の災害本部運営拠点、緊急消防援助隊出場時の各種資材の保管、大規模災害時等における職員の長期活動支援の物資及び資機材の保管。当市としては、大規模災害時に対応できる新庁舎のスペースの確保を期待する。
<p>委員長の総括</p>	<p>大規模災害時に長期対応可能な庁舎であり、消防職員の執務・訓練環境が良好な庁舎であった。72時間対応の自家発電機2機が屋上に設置されている点は取り入れるべきである。地下や低層階では想定外の雨量時に浸水する可能性が高い。</p> <p>消防職員の働き方改革のためには多くの女性消防職員の活動が必要であり、職場環境向上となる職員のプライバシーに配慮した施設整備は重要である。また、移動動線に配慮した施設レイアウトも感心した。</p> <p>広い車庫空間が確保された設計となっていた。これにより迅速、安全な出勤ができ、広い車庫空間を利用した訓練も可能となる。</p> <p>本市においては、老朽化した消防本部庁舎も近い将来の建てかえ計画時には参考とするべきである。また、東消防署南分署の施設移転計画時には大いに参考とし取り入れるよう提言する。</p>